

## 令和3年度坂部小学校学校経営構想

### I 歴史と伝統

明治5年(1872年)「学制」の発布を受け、翌6年(1873年)7月16日、坂部村久翁寺に青池学校分校「中里村学校」が設立された。これが本校の始まり(創立)である。そして、明治26年(1893年)1月31日、現在の場所に坂部尋常小学校校舎を新築し、本校開校となった。本年度、開校128周年となる。その後も地域の人々は、人材の育成を重んじ、教育に深い理解を示し続けている。その思いを象徴するのが、大正8年(1919年)10月に制定され、以来百年余にわたり歌い継がれてきた校歌である。本校校歌は、まだ学校に校歌がなかった時代に先んじて作られている。「熱心 勤勉 質朴を村是としたるわが村の」「おしえのさとし 身にしめて」「いざや励まん 文の道」という歌詞には、当時の人々の思いとともに、先進性と教育にかける情熱が込められている。

平成4年(1992年)に坂部工業団地が本格的に操業を始め、平成21年(2009年)には富士山静岡空港が開港した。各所に工場や事務所が作られ、道路整備とともに地元企業に勤める人が多くなり交通量が増加してきた。農家には、茶・みかん・米・レタスに加え、新たな商品作物を栽培する機運があり、地域全体で情熱と誇りを持って農業の活性化にも取り組んでいる。豊かな自然や進取と堅実な地域風土の中で、学校を支える基盤としての地域の存在は、確固としたものがある。

本校教育に脈々と流れる精神は、校歌にある村是「熱心 勤勉 質朴」の心、校章に込められた「勉学 気品 有為」の心、38年間続いている「仲よし学校」の「感謝 思いやり がまん」の精神に表れている。これらを坂部小学校の教育の礎とし、代々受け継がれてきた伝統を大切にして、教育の動向を鑑みながら創造発展させて未来につなげていきたい。(令和2年度の「仲よし学校」は、新型コロナウイルス感染拡大防止の対応として「仲よしウォーキング(R2.11.21)」に変更した)

### II 坂部の実態

#### 1 児童の実態

- ・素直で明るく、何事にも真面目に取り組むことができる。
- ・学年間の絆をこえた強いつながりがある。
- ・困っている人がいると優しく声を掛けたり手をさしのべたりできる。
- ・坂部しぐさ「くつそろえ、傘閉じ、(校内での)あいさつ」がよくできる。
- ・ふるさと坂部が大好きである。大切にしている。
- ・やることが明確になると一生懸命に取り組めるが、粘り強く最後まで考えながら取り組んだり、試行錯誤しながら課題解決したりすることが苦手な子が多い。
- ・相手の考えを反応しながら聞いたり、他者の考えを受け入れ自分の考えを深めたり相手を意識して自分の考えを表現したりすることが苦手な子が多い。

#### 2 地域の実態

- ・3世代の家庭が多い。
- ・坂部地区には800世帯が居を構え、1町内から6町内に分かれている。
- ・学校に対する協力を惜しまない。

### Ⅲ 令和3年度教育課題

- 1 「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業実践による授業力の向上とそれにもなう児童の学力向上
- 2 特別支援学級開設にもなう特別支援教育の更なる充実と児童・保護者への理解
- 3 ギガスクール構想によるICTを活用した授業実践の積み上げ(一人一台パソコン)
- 4 キャリア教育を軸とした榛原中学校区内小中一貫教育とコミュニティ・スクールの推進(牧之原市教育大綱より)
- 5 児童、職員の安心・安全な生活を第一と考えた新型コロナウイルス感染症防止対応

### Ⅳ 経営の基本的考え

- 1 全職員が全校児童の担任  
小規模校である本校の強みを生かし、「支援員等を含めた全職員が全校児童の担任である」という意識を持って情報共有を行うとともに、支援・指導にあたる。
- 2 組織で動く  
職員一人一人の持ち味を生かして全教育活動に取り組むことはもちろんであるが、更によりよいものを創るために、「組織(教務部、授業づくり部、心と体そだて部、事務部等)で動く」ことに努める。
- 3 目指す姿(育てたい資質・能力やその具体的な姿)を明確にする  
何のためにそれをやり、どのような具体的な姿を目指すのかを明確にすることで、手立てがはっきりとし、目標達成の意欲も高まる。

### Ⅴ 目指す学校像とその主な手立て

- 1 一人一人の「よさ」や「違い」を認めるとともに、人権意識を持ちながら活動することで、誰もが勇んで(心が奮い立つ、力がわいてはりきる)向かいたくなる安心・安全な学校を目指します。

(そのためには)まずは、自分自身が健康である

自分を理解してくれる優しい友達・学級がある(安心感)

何でも話せる先生がいる(ほめる、指導する、相談にのってくれる)

楽しい授業がある、授業の中に新たな発見がある

授業が分かる(基礎・基本の定着)

ワクワクする活動や行事がある

家庭が学校の理解者である(家庭・地域も子供を安心して送り出せる)

→児童理解と個に応じた支援の充実【Ⅶ-2】

→危機管理意識を高める【Ⅶ-3】

- 2 「学校教育の中心は『授業』である」という基本理念のもと、授業の中でも子供が輝く学校を目指します。

→学習指導要領の趣旨を踏まえた授業実践と研修の充実【Ⅶ-1】

→「授業が楽しい」「授業が分かる」から基礎・基本の定着に結びつく取組【Ⅶ-1】

- 3 地域とともに歩み、地域とともにある学校を目指します。

→総合的な学習の時間等を活用したキャリア教育、地域学習の充実【Ⅶ－４】

→地域人材の活用、コミュニティ・スクールの推進【Ⅶ－４】

## Ⅵ 学校教育目標、育てたい資質・能力、重点目標

### 1 学校教育目標 「心豊かで たくましい坂部の子」

- < 心豊か > ・自らを律しつつ、相手と協調し、相手を思いやることができる  
・真理を追究し、美しいものに感動する
- < たくましい > ・より高い価値をめざして挑戦する  
・自ら考え、最後までやり抜き、自分の言動に責任を持つ

### 2 育てたい資質・能力

子供たちの実態を踏まえ、本校で育てたい資質・能力を次のように設定した。

- (1) 基本的な生活習慣（基本的な生活習慣を身に付け、ルールを守り、気持ちよく生活する。）
- (2) 共生的な態度（誰に対しても、相手の立場や気持ちを受け入れながらかわり、自分のできることを考えて行動する。）
- (3) 読解・理解力【聞く】（必要な知識や情報を読み取り、自分の考えや思いと比べたり付け加えたりしながら、考えを深め、見方を広げる。）
- (4) 情報活用・課題解決力【考える】（課題や疑問を持ち、必要な知識や情報を求め、経験や既習学習を活用し試行錯誤しながら、粘り強く解決する。）
- (5) コミュニケーション力【話す】（相手の気持ちを大切にしながら、自分の気持ちを伝える相互理解を深めるとともに、よりよい人間関係を築く。）
- (6) 自尊感情、主体性（自分の取組の過程を振り返り、自己理解を深め、自分のよさを自覚し、新たな課題に挑戦する。）

これらの育てたい資質・能力を教科横断的な視点で育ていけるように、組織的に配列しながら教育課程を編成する。

#### < 主体性と自主性 >

主体性とは、「何をやるかは決まっていない状況でも、自分の意志や判断で責任を持って行動する態度」である。例えば、あいさつをしようとする人が、「職場環境をよくする目的」から、あいさつ以外に朝礼を企画する人。

自主性とは、「明確に定まっていることを、人に言われる前に率先して自らやる態度」である。例えば、あいさつをする際に、周りの人に率先して元気よくあいさつすることができる人。

### 3 重点目標 「夢中になって取り組む子」 （3年目）

令和元年度までは、自己肯定感を高めるために「自己のよさ」に視点をあてた教育活動を進めてきた。そして、令和元年度、2年度は本校児童の課題である「主体性」を身に付けさせたいという願いから、重点目標を「夢中になって取り組む子」とした。

「夢中」になって取り組むことで、主体的な態度につなげたいと考えたからである。実際に授業では、「夢中」になって取り組ませるための手立てとして、子供から出された問いを学習問題として提示することで意欲につなげた。また、行事等では、子供の実態や思いを取り入れるとともに「夢中」になるための支援を心がけた。これにより、

様々な場面で子供たちの「夢中」の姿が見られるようになり、それが自主性へとつながった。しかし、学校評価結果や児童の実態等を見たとき、「Ⅱ 児童の実態」に示したような課題が明らかとなった。

そこで、令和3年度も、重点目標「夢中になって取り組む子」を継続していく。そして、昨年度職員自身の意識の低かった「Ⅵ 2 育てたい資質・能力」やその具体的な姿（目指す姿）を活動ごと明確に示すことで、確かな歩みにつなげたい。

また、友達のよさや自他の違いに気付き、それを受け入れることは、集団生活の土台となる。自分のよさを知ること、やってみようとする意欲の基盤ともなる。そこで、これまで行ってきた「よさ見つけ」を継続し意欲の基盤づくりを行うとともに、そこからわき出る「やってみよう」という思い、失敗を恐れず試行錯誤しながら「やり抜く」過程、その「振り返り」、そして自分や友達のがんばりを「認め合う」ことで更に次への意欲につなげるサイクルをつくり、より高い「夢中」の姿につなげたい。

## Ⅶ 経営の重点

### 1 学ぶことを楽しいと感じ、自ら追究しようとする力を育てる。(知)

○「学校教育の中心は『授業』である」という基本理念のもと、教材研究を通して魅力ある授業づくりに努めるとともに、「聞く（反応する）、考える、話す」を更に意識した授業を構想する。(研修の充実)

- ・子供が主体となる学習（自分ごととしての学び）の創造
- ・学習指導要領を踏まえた授業実践の積み重ね（見方・考え方の構築、評価）
- ・「考え、議論する道徳」の授業や自分の考えを話す場面をつくることで、個や集団を鍛える。
- ・「一人一台パソコンを生かした ICT 教育」「外国語教育」の推進

○基礎・基本の定着

- ・基礎・基本の定着を図るための継続的な取組、放課後支援（ぐんぐん）
- ・家庭学習の充実（熱心・勤勉・質朴ノートの活用）

### 2 自らかかわり、互いに「よさ」や「違い」を認め合える力を育てる。(徳)

○児童理解と個に応じた支援の充実（「坂部っ子を語る会」等による情報共有）

○「よさ」や「違い」を認め、誰もが生き生きと活躍できる共生社会づくり

- ・特別支援教育の理解と充実
- ・特別支援学級や異学年、福祉施設等との交流を通じた思いやりの心の育成

○社会で生きていくために必要な力を身に付けるキャリア教育の推進（9年間のつながりを考えた榛原中学校区内小中一貫教育の推進）

○坂部しぐさの継承と発展（本物の自慢に）

- ・あいさつしぐさ、きれいな言葉しぐさ、そうじしぐさ、ろうか歩きしぐさ  
靴そろえしぐさ、傘とじしぐさ

○自己肯定感を高める活動（みかんの木等を使った「よさ見つけ」の励行）

○「楽しい学校づくり」「よりよい学校づくり」を目指した児童会活動の活性化

○道徳教育の充実

### 3 健康や安全について考え、自らを鍛える力を育てる。(体)

- 体づくりに関する指導（体力アップカード等を活用した自らを鍛える場の設定）
- 健康づくりに関する指導（心と体を整える場の設定）
  - ・新型コロナウイルス感染防止対策の徹底
- 食に関する指導（栄養教諭による食育指導、食事のマナー）
- 安全に関する指導（防災教育や防犯教育で自分の身を自分で守る、交通安全指導）

### 4 学校、家庭、地域が連携し、信頼される学校、職員集団をつくる。(信頼)

- コミュニティ・スクールの立ち上げと推進
  - ・家庭・地域と連携した「ふるさと坂部体験」や地域の材を生かした「ふるさと坂部学習」の推進（点から線になるつながりのある活動）
  - ・里やまの会、クラブ活動、読み聞かせボランティア、施設等との交流
- 「全職員が全校児童の担任」であるという意識で関わる。
  - ・率先垂範、授業を語り子供を語る職員集団に
- SCやSSWを通じた外部機関との連携による、児童とその保護者への継続的支援
  - ・SCやSSW、専門職員を活用して特別な支援を要する子への継続的な支援方法を考える。
- お便りやHP等を活用した情報発信

### 5 笑顔があふれ、磨き合える職員集団（「働き方改革」でゆとりのある職場）をつくる。

- 勤務実態の把握
- 軽重を付けた会議や活動の実施（やめる、減らす、かえる）
- 職員間の協働体制、協力体制による負担感の軽減
- 共同学校事務室による全職員の負担軽減
- 語り合い、笑い合える職員室（不祥事根絶に向けた声掛け）